

第2回 立川市入札等監視委員会審議概要

開催日及び場所	平成30年6月29日(金) 201会議室	
出席委員氏名	鈴木満 委員長、山田春紀 委員、榎本孝芳 委員	
審議対象期間	平成30年1月16日～平成30年3月31日	
抽出案件	工事 0件 委託 19件 総件数 19件	(備考) 随意契約の16件には、平成29年度実施のプロポーザル1件を含む。
条件付き一般競争入札	工事 0件 委託 3件 総件数 3件	
指名競争入札	工事 0件 委託 0件 総件数 0件	
随意契約	工事 0件 委託 16件 総件数 16件	
<p>次第</p> <p>1 委員長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 審議</p> <p style="margin-left: 40px;">平成29年度委託等契約抽出案件について (平成30年1月16日から平成30年3月31日まで)</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 報告</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 委託等契約の推移について(平成25年度から平成29年度まで)</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 平成29年度委託等契約の状況について</p> <p style="margin-left: 40px;">ウ 施工能力等審査型総合評価方式試行案件報告について</p> <p style="margin-left: 40px;">エ 平成29年度工事成績評定実施報告について</p> <p style="margin-left: 40px;">オ 平成29年度委託成績評定実施報告について</p> <p>3 その他</p>		
委員からの意見、質問及びそれに対する回答		
意見・質問	回 答	
<p>1 委員長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 審議</p> <p style="margin-left: 40px;">平成29年度委託等契約抽出案件について (平成30年1月16日～平成30年3月31日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理課長が平成30年1月16日から3月31日までの委託契約の状況等について説明する。 ・総価契約全29件の抽出案件のうち16件が特命随意契約となっている。また、特命のうち1件はプロポーザル方式による案件となっている。 ・契約件数は平成28年度と比較し16件増加している。平成29年度は繰越明許案件が比較的多かったことや、基幹系システムの改修が7件あることが理由としてあげられる。 ・変動型最低制限価格を設定した案件は特命・リー 	

<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の同一時期と比較し、入札参加者数が倍近く増加しているが、参加者数の多い業種が多かったということか。 ・「床版厚調査業務委託」の4件は同一日に入札を実施しているが、2件を同一業者が受注している。「取り抜け方式」は適用していないのか。 ・「取り抜け方式」は、入札が後の回になるにつれて、競争性が減少する傾向がある。 	<p>スを除く総価競争分12件のうち7件あり、このうち未算定となったものが1件あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落札率が50%以下のものは、「保護樹林地管理委託その9」の1件のみであった。 ・4件ある「床版厚調査業務委託」は、第五小学校の改修時に判明したスラブ床の厚み不足を受けて、同時期に竣工した小・中学校13校のスラブ厚を調査する内容の委託である。緊急及び短期間での調査になることから、受注者の業務負担を軽減するため4件に分けての発注となった。 ・特命・リースを除く総価競争分について、契約件数は平成28年度の4件から平成29年度の12件へ、平均参加者数は5.5社から10.2社に増加している。平均落札率は、単純平均、加重平均ともに下降している。 ・特命・リースを除く総価競争分について、平成28年度、平成29年度ともに1,000万円以上の契約案件は発生していない。年度末で工期が限られているため、規模も金額も低目になったと思われる。 ・「自然環境調査委託」の参加者数が32社と多く、これが平均参加者数の増加に影響していると思われる。 ・緊急に行う必要があったため、「取り抜け方式」は適用しなかった。 <p>・品質管理課長が期間中における競争分の抽出案件を説明する。落札率が95%以上のものを抽出した。「鉄蓋変遷表作成業務委託」、「庁舎北側職員駐輪場脇通路転落防止柵設置委託」、「立川市立第一小学校コンピュータ室パーティション設置委託」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理課長が特命随意契約15件について説明す
---	--

<p>・特命随意契約の理由に「その性質又は目的が競争入札に適さない」と「競争入札に付することが不利と認められる」があり、どこが違うのか分かりにくい部分がある。解釈基準のようなものはあるか。</p> <p>(2) 報告</p> <p>ア 委託等契約の推移について (平成25年度から平成29年度まで)</p>	<p>る。</p> <p>「基幹系システム改修委託（土砂災害特別警戒区域補正に伴う固定資産税システム改修）」、「基幹系システム改修委託（前期高齢者の高額療養費申請手続簡素化に伴う国民健康保険システム改修）」、「幼稚園児補助金管理システム構築委託」、「立川市立川駅北口第三有料自転車等駐車場自転車ラック移設業務委託」、「基幹系システム改修委託（被災者生活再建支援システムにかかる住民基本台帳・固定資産税システム改修）」、「基幹系システム改修委託（旧姓併記対応に伴う住民記録システム改修）」、「基幹系システム改修委託（母子及び父子女性福祉資金貸付業務システム導入）」、「基幹系システム改修委託（データ標準レイアウト改版に伴う国民健康保険・児童福祉システム改修）」、「基幹系システム改修委託（地域危険度調査改訂に伴う固定資産税システム改修）」、「基幹系システム改修委託（電子媒体化及び様式統一化に伴う国民年金システム改修）」、「母子及び父子・女性福祉資金管理システムデータ抽出委託」、「人事評価システム改修委託（コメント開示に伴う改修及び能力総合評価の自己評価欄の追加）」、「介護保険システム改修委託（介護保険制度改正及び個人番号制度対応）」、「平成29年度立川市庁内ネットワーク設計構築委託その6（SmoothFile対応等）」、「立川市立川公園野球場便所等改修工事監理業務委託」。</p> <p>・「特命随意契約のガイドライン」を定めており、特命理由の具体例を幾つか例示している。</p> <p>・品質管理課長が平成25年度から29年度までの委託等契約の推移について報告する。</p> <p>・契約件数は、平成25年度から27年度にかけて89件減少し、平成27年度は486件となったが、平成28</p>
---	--

<p>イ 平成 29 年度委託等契約の状況について</p>	<p>年度以降は増加傾向にある。特命随意契約及び一般競争入札についても平成27年度にやや減少し、平成28年度以降はやや増加するという傾向である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税抜契約金額は、契約全体と特命随意契約の区分について、平成25年度と28年度が高額となっている。これは、平成25年度に家庭ごみ等の分別収集委託が約55.6億円あり、平成28年度に基幹系システムの構築運用委託が約17億円、及び下水道施設運用事業委託が約15.5億円あったことが影響している。 ・平均落札率は、年度間で大きな変動は見られない。全体として88%前後、特命随意契約は98%前後、一般競争入札は77%前後で推移している。 ・平均入札参加者数は、年度間で大きな変動は見られない。契約全体とプロポーザルは4社前後、一般競争入札は7社前後で推移している。 <p>品質管理課長が平成 29 年度委託等契約の状況について報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度の総件数は、平成 28 年度と比較し 28 件増加し 532 件となっている。 ・総価契約では、特命随意契約（プロポーザル含む）が187件、一般競争入札（リース含む）が234件、合わせて421件となっている。 ・単価契約では、特命随意契約が59件、一般競争入札が52件、合わせて111件となっている。 ・業種別でみた件数の主な増減では、建築設計、建物清掃、電気・暖冷房等設備保守などが増加し、警備・受付等、市場・補償鑑定関係調査業務、賃貸業務、通信施設保守などが減少している。 ・変動型最低制限価格の対象件数は、平成28年度より25件増加し123件となっている。このうち85件が算定、38件が未算定となり、算定率は平成28年度より11.5ポイント上昇して68.6%となっている。 ・地域要件を市内とした案件（特命を除く）の全件に占める割合は、平成28年度より5.8ポイント上昇し31.1%となり、実際に市内業者が契約した件
-------------------------------	---

<ul style="list-style-type: none"> ・変動型最低制限価格を算定した案件はくじ引きが発生してない。くじ引きの解消を目的とする効果があらわれている。 ・デザインやアイデアを募集するようなものは、コンペ方式が適している。発注者の事業PRにもなる。 	<p>数についても28.6%から31.2%で2.6ポイント上昇している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落札率50%未満の低入札による契約件数は20件あり、長期継続契約は63件、プロポーザル案件は3件、準備行為による契約は257件あった。 ・一般競争入札による契約（リースを除く）について、業種別に落札率の高い順に並べると、落札率95%以上が8業種、90%以上95%未満が10業種となっている。このうち測量や管渠清掃は、契約件数や平均入札参加者数が比較的多いにもかかわらず90%以上の高い落札率となっている。過去5年間のデータを確認すると、平成25度は両方とも落札率88%前後でその後少しずつ上昇している。その一方で参加者数は減少傾向にある。 ・総価契約の競争分のうち業種別でみた落札率が90%以上のものについて、高落札率で同じ業者が何度も受注しているものがある。 ・平成29年度の長期継続契約件数は63件あった。契約期間をみると36月が45件あり、大半を占めている。全体の平均は41.1月となっている。業種別では電気・暖冷房等設備補修と建物清掃の件数が多くなっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理課長が平成29年度のプロポーザル案件3件の審査結果について報告する。 「立川競輪「開設66周年記念競輪鳳凰賞典レース」開催告知用ポスターデザイン製作業務委託」、「立川競輪開設66周年記念競輪開催に係るイベント演出等関連業務」、「立川市外国語指導助手委託（派遣事業）」。 ・競輪のポスターデザイン制作は、平成30年度はコンペ方式で実施している。
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手委託は、価格非考慮型で実施しているようだが、なぜ、価格を考慮しないのか。 ・仕様書等にサービスの質を落とさないような要件を明記しているのか。 ・仕様書の内容を曖昧にすると、参加する業者の積算も曖昧になることがあるので、詳細をきちんと明記するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当委託業務は主に人的役務なので、あまり価格で競うとサービスの質の面で差が出てきてしまう事があるのではないかと考えている。 ・現在は、ヒアリングで資格等を確認しており、数値化して点数を付けている。
<p>ウ 施工能力等審査型総合評価方式試行案件報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合評価よりも工事成績の点数を指標とした入札の方が品質確保の面で効果的ではないか。実際に導入している自治体もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理課長が施工能力等審査型総合評価方式試行案件1件について報告する。 「立川市立羽衣保育園ほか2園給水管改修工事」。 ・先進導入市の状況を調べてみたい。
<p>エ 平成29年度工事成績評定実施報告について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理課長が平成29年度工事成績評定実施報告について説明する。 ・評定件数は例年130件前後で推移している。平成18年度以降でみた総評定点の平均は、初年度（平成18年度）が77.9点で最高点となり、その後、上下しながら徐々に下降傾向にある。最高点の推移も同じような傾向があらわれている。平成29年度の最高点は80.7点、最低点は50.5点となった。50.5点は過去の実績の中でも最低となっている。 ・事業者所在地別で見ると、市内業者の平均が71.8点、その他業者は70.6点で、若干であるが市内業者のほうが高くなっている。 ・契約方法別で見ると、特命随意契約の平均が71.9点、一般競争入札の平均が71.2点となっている。 ・平成27年度から29年度の評定項目ごとの評定点の推移では、監督員、検査員ともに評定はほぼ一定している。 ・建築系、設備系、土木系の工種系別でみた平均総評定点は、点数が高い順に設備系、土木系、建築系となっており、設備系と建築系の差は1.9点と

<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月に検査件数が集中しているので、入札時期などを工夫して平準化するべきではないか。 ・ 工事成績を指標とした入札を考えた場合、工事検査の信頼性が求められるようになる。 <p style="text-align: center;">オ 平成 29 年度委託成績評定実施報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札率が低いほど総評定ポイントも低いといった、いわゆる「安かろう、悪かろう」の傾向が若干見られる。落札率が低い案件ほどチェックを厳しく行うような努力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なっている。 ・ 検査件数と総評定ポイントの関係について、検査は年度末に集中しているが、月別の平均評定ポイントは月によって大きな差はみられない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質管理課長が平成 29 年度委託成績評定実施報告について説明する。 ・ 年間あたりの実施件数が一番多い年でも20件となっており、工事と比較し少ない状況である。 ・ 評定ポイントの平均は66点前後で横ばいになっている。また、最高点や最低点は年によって上下している状況である。 ・ 平成29年度は市内業者による案件はなかった。 ・ 平成27年度から29年度の評定項目ごとの評定ポイントの推移では、監督員、検査員ともに評定に大きな差は見られなかった。 ・ 測量、設計、監理の系別で見ると、測量は1件のみで総評定ポイントが75.6点になっており、過去2年間も70点以上になっている。設計は平均総評定ポイントが64.4点で、平成28年度にやや上昇している。監理は平均総評定ポイントが65.2点で、過去2年間と比較し下降している。平成29年度は中規模改修工事があり、大規模改修工事と違い「居ながら工事」になったため、管理の難易度が上がったこと、また、受注した事業者が立川での受注経験が足りなかったことが影響したと考えられる。
--	--

3 その他

次回開催について

・ 次回の開催は8月31日(金) 10:00。